



木と鉄の複合梁<テクノビーム>の上に、寄棟造の屋根が組まれている。(写真左は屋根施工前の2階部)

東野川保育園

所在地 / 東京都狛江市東野川
 主 施 主 / 個人、一般財団法人
 設 計 監 理 / 株式会社ELハウジングカンパニー
 施 工 / 株式会社ELハウジングカンパニー
 竣 工 / 2014年10月(予定)
 構 造 形 式 / 木造(テクノストラクチャー工法)



500mmピッチで<テクノビーム>が配置された2階床



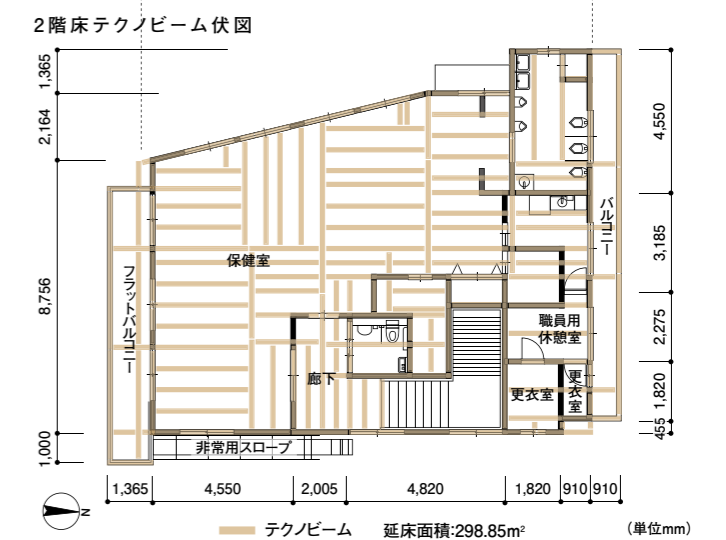
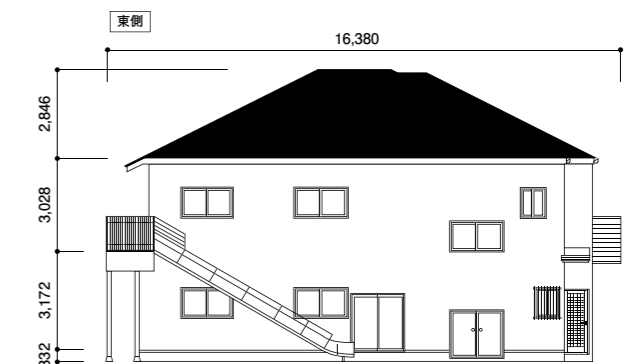
広い梁間が確保された2階保育室



フラットバルコニーにスノコを置くために段差が設けられた<テクノビーム>



保育園正面からの見上げ



東野川保育園

HIGASHINOGAWA NURSERY SCHOOL

コストパフォーマンスに優れ開口部も広く取れる工法を初採用
 世田谷区と境界を接する狛江市東野川は緑豊かで閑静な住宅地。ここに建設されるのが延床面積298.85m²(1階151.38m²/2階147.47m²)の東野川保育園。2014年12月に開園予定で、0歳から5歳まで約60名の乳幼児を保育する。1階には事務室や調理室に加え、0~1歳児の保育室と2歳児の保育室。2階には3~5歳児用に約79m²の保育室が配置されている。「計画にあたっては2階の保育室で子供たちが広々と遊べるように木と鉄の複合梁<テクノビーム>を用いることによってスパンを飛ばすことを考えた」と

語るの、設計監理・施工を担当した株式会社ELハウジングカンパニー代表取締役の高坂繁樹氏。住宅やアパートの新築にはほとんどテクノストラクチャー工法を採用する高坂氏は、「2階に集まる子供たちの荷重を考えて、2階床の密な場所では500mmピッチで<テクノビーム>を配置した。また、テクノストラクチャー工法は木と鉄の複合梁なので、子供たちが飛び跳ねても構造体を伝える騒音が鉄骨造と比べ少ない」という。さらに、鉄骨造では難しい南西壁面の台形配置や、南北に設けられたバルコニーの強度を確保するためにも、テクノストラクチャー工法のメリットが生かされている。